

## 「平和」な世界をつくるためにできること

～知ること、認め合うこと、伝えあうこと～

### 1：二日市中学校の平和集会&平和劇の概要（現在の姿）

- 6月 実行委員募集&立ち上げ（2017年度は、1年12名、2年41名、3年72名、計125名）  
昼休みを使って、平和学習会（2017年は先輩が後輩へ伝える）（2017年度は、12回実施）
- 7月 役割分担
- 夏休み 朝7：00～9：00 練習&準備（2017年度は、12日間+リハ）  
現地調査
- 8月6日 平和集会・平和劇  
2部公演（午前：全校生徒向け 午後：PTA、地域の方向け）

### 2：実際に見てみましょう。

DVD 頒布中です。2017年度版 1000円、2016年度版 500円、2015年度版 500円

### 3：二日市中学校平和劇の歴史

#### (1) スタートは、1988年の平和集会

体育館に20万人分の赤色の人型

#### (2) 途中2年間の休止期間

#### (3) 復活後のテーマ

2007年 休止（坂田が二日市中学校にやってくる）

2008年 沖縄戦（先輩先生K先生赴任）【事前調査】

米軍のみならず、日本軍からも苦しめられた沖縄県民を扱いました。

2009年 特攻隊【事前調査】

軍上層部の誤った方針を純粋に信じ、苦しみながら死んでいった若者と残された人々の苦悩を扱いました。

2010年 ナガサキ【事前調査】

「戦争の被害の側としての日本人」「原爆の残虐性」「核兵器廃絶を求めている現代の高校生1万人署名と二中の千人署名」を扱いました。

2011年 筑紫駅銃撃事件【現地調査：筑紫野市等】

戦争の悲劇が地元でも起きていること、また、真実がねじ曲がって伝わっていること

を扱いました。

2012年 福岡大空襲【現地調査：福岡市内】

米倉斉加年さんが観劇され、「平和は、身近なこと。いじめをしない。こんな素晴らしい劇をつくりあげる人は、人を絶対にいじめない。」とお話されました。

2013年 ヒロシマ・フクシマ【現地調査：福島県等】

原爆の被害は高温、爆風、そして放射能でした。放射能の被害は長年にわたって悲劇を生み続けた現実があります。東日本大震災での福島第一原発の事故による福島県民の苦しみと、原爆の被爆者たちの苦しみ、そして遠く離れた我々に何ができるかを考え、表現しました。

2014年 佐々木禎子さん【現地調査：広島県等】

2013年に描ききれなかった佐々木禎子さん、雅弘さんの悲しみ、福島で起こっているねたみ差別、それらに共通する人間の心の闇、そしてその先にある光を表現しました。

2015年 大刀洗空襲（K先生異動、坂田が劇を担当する）【現地調査：大刀洗町等】

大刀洗を舞台に、戦争によって、破壊されていく人間性、引き裂かれていく家族愛を表現しました。

2016年 引き揚げ・二日市保養所【現地調査：博多港等】

満州へ開拓移民した家族が終戦後、どのように引き揚げてきたのか、また、二日市保養所について演劇と朗読劇で伝えました。

2017年 ヒロシマ・ナガサキ・フクシマ・ミナマタ【現地調査：水俣、福岡市内等】

福島から避難してきた中学生に降りかかる差別に対して、差別がどのようにして生まれ、どのように人を苦しめ、どのようにしてなくしていけるか、差別のない世の中がどんなに幸せなことかを描きました。

#### 4：ここをこだわっています！！

(1) 集会を行う。

全校生徒、参加者全員で「平和」「差別のない世界」について考える。共有する。つながる場。

(2) 平和劇のこだわり。

ア：実行委員形式（希望する生徒はだれでも参加できる）

イ：事前の平和学習を実施（担当がなんであれ、取り扱う内容を学習する）

→2017年度は、先輩から後輩へ伝える学習会の実施

ウ：現地に行き実際に見たり、体験者や活動をされている方の生の声を聞いたりしたことを劇に反映させる。

→2016年のエンディングは実話

エ：具体的な演出等は、生徒同士で話し合い決定していく。

#### 5：経験者の「学び」、これから支える世代の「抱負」

(1) 平和集会実行委員長を経験したOGから

(2) 平和集会をはじめ保体委員長として「平和」な世界をつくりあげたOBから

(3) 2017年度SPP（スマイル・ピース・プロジェクトリーダー）兼平和集会実行委員長から

(4) 1年生から平和劇に関わってきた現SPPリーダーから

## 6：実践者としての「学び」

- (1) 先輩先生の一言「アカデミックだね」  
「研究者」ではなく、「教育実践者」でいたい。
- (2) 故 米倉齊加年さんの言葉  
「平和とは友達を大切にすることから」  
遠い世界、過去のことを、自分の人生に活かす。
- (3) スイス・ジュネーブ 国連訪問  
ICAN など若い人たちの活躍  
国際的な視点の必要性
- (4) 二日市中学校の人権学習  
子どもたちに何を学ばせ、どんな大人になって欲しいかを求める。
- (5) さまざまな人との出会いを通して
  - 現地調査で出会う戦争体験者の方々
  - 福島の方々
  - 水俣病患者さん、もやい直しをされているの方々

## 7：意見交流会（生徒も参加します！）

## 8：これからの展望

- (1) 2017 年度生徒会長より
  - ・二日市中学校平和宣言から、私たちの思う「平和」とは
  - ・活動の輪を広げ、「微力」を自分たちの手で「大きな力へ」
    - 核兵器廃絶署名
    - 熊本地震被害への支援活動
    - 筑紫野市内五中学校生徒会連合体発足
      - 世界の難民の子どもたちへ洋服を送る
      - いじめや差別を自分たちの手でなくす。五中学校共同「人権宣言」
- (2) 終わりに…
  - ・平和教育は、大きな転換期
  - ・体験者に直接お話を聞ける最後の世代？
  - ・体験者の思いを、五感を使って感じ、次の世代へつないでいく。
    - 「知る」「認め合う」「伝え合う」
    - 日常にいかす。
    - 自己表現できる場、環境の設定→主体性をもった子ども
  - ・子どもの 30 年後、60 年後の「幸せ」を保証する教育を

## 二日市中学校 平和宣言

時の流れと共に、風景は移り変わり、人や人の感覚さえも変わってしまった。

時が経つにつれ、「反戦・平和」への思いは薄まり、世界では今もなお、紛争や内戦が続いている。

私たちは「戦争」を体験していません。だから「戦争」というものを真に理解することはできません。しかし、「戦争」によって人の人生は大きく変化し、戦争が終わっても、心の中に暗く深い闇として存在し続けています。

今を生き、これからを生きる私たちには、使命があります。

「戦争」の事実を学習し、体験者の方の思いを感じ、事実だけでなく自らが感じた感覚を後世に語り次いでいくことです。

また、地球上のあらゆる差別や抑圧に対して、決して許さないという姿勢を貫き、なくしていこうと立ち上がることです。

しかし、我々が望むものは、「戦争」のない世の中だけではありません。世界中の誰しものが、明日に希望を持ち、あらゆる差別や抑圧を受けず、生きていける世界です。これこそが、「平和」であると考えます。

「平和」な世界を希求し、実現するために、私たちは次のことを遵守します。

- 一、仲間のことを理解し、思いを受け止め、共に協力します。
- 一、「戦争」をはじめ、世界中のあらゆる差別の現実を学び、感じ、考え、行動を起こします。
- 一、私達が学び、経験したことを、地域や世界に向けて発信し続けます。

2015年8月6日 平和集会実行委員会

